

ごあいさつ



芳川豊史教授

皆さま、こんにちは。

この度、令和元年9月1日付けで、名古屋大学大学院医学系研究科呼吸器外科学講座教授に着任しました、芳川豊史と申します。

私たちの教室は、平成25年4月1日に、東海・中部地区の国公立大学で初めての呼吸器外科学講座として設立された新しい教室です。設立後7年目を迎えましたが、これまでに、初代教授である横井香平先生の指導の下、現在も在職している医局員が核となり、臨床・研究・教育に地道に取り組み、東海・中部地区随一の呼吸器外科教室に発展させてきました。

約20の関連施設と密に連携しながら、肺・縦隔・胸膜など、心臓を除く胸部に発生する疾患に対する外科治療を行う一方、病態解明や治療技術の開発を目指したオリジナリティーのある研究を行ってまいりました。臨床面では、進行肺癌や胸腺腫に対する拡大手術や胸膜中皮腫に対する集学的治療を積極的に行う一方、ロボット手術をはじめとした胸腔鏡下の低侵襲手術を得意としております。

これらの研究・臨床活動を、学内外の関連する基礎医学、社会医学、そして臨床医学の教室と協力しながら、新たな視点・新たなレベルで発展、進化させるのが私に与えられたミッションと考えております。私は、京都大学で、東海・中部地区では行われていない肺移植を含んだ、呼吸器外科における診療を幅広く行う一方、肺癌、肺移植、再生医学の研究をバランスよく進めてまいりました。これらの経験をもとに、臨床・研究・教育をインタラクティブに行い、魅力ある教室づくりを行いたいと思っております。

呼吸器外科領域で取り扱う最大の疾患である肺癌は、本邦においても世界においても、悪性腫瘍での死亡原因の第一位となっております。また、間質性肺炎・COPDなどの慢性呼吸不全に対する最後の砦となる肺移植医療は、本邦でも、世界でも、その数が年々増加しております。このように、呼吸器外科領域においては、これからも肺癌に対する根治療法としての外科治療の必要性は高く、肺移植などの高度医療の必要性も着実に増加しています。また、高齢化社会がさらに進んでいく社会の中で、呼吸器外科医の需要は年々増大しております。医局員一同わが国の呼吸器外科医療を担う後進の育成に尽力していくとともに、呼吸器外科学の発展のため全力で診療・研究・教育に取り組んでいく所存です。

私は、平成9年に京都大学医学部を卒業し、京都大学胸部疾患研究所外科学(人見滋樹教授)に入局しました。その後、高知市立市民病院、静岡市立静岡病院での研修後、平成16年に京都大学大学院(呼吸器外科学、和田洋巳教授)に進学しました。その後、肺癌・肺移植をはじめとした呼吸器外科全般における臨床・研究を幅広く行ってまいりました。平成20年からのトロント大学胸部外科(Shaf Keshavjee 教授)でのクリニカルフェローを終えた後、伊達洋至教授の指導の下、京都大学における肺移植の実働の要となり、200例以上の肺移植に直接関わってきました。また、肺癌などの胸部腫瘍性病変においても幅広く手掛け、早期肺癌におけるロボット手術・区域切除を含めた低侵襲手術から進行期肺癌における集学的治療に至る

までを得意とします。私のモットーは、「誠実に医療・医学を行う」ということです。名古屋大学を選んで来られた患者さんに、信頼していただいたうえで、期待にそえるような全人的医療を行うことを目標に、実地臨床のみならず、臨床研究および基礎的な研究も行っております。私自身は、今なお修行中の身ですので、名古屋大学呼吸器外科の同僚医師と medical staff、さらには、患者さんと一緒に、奥深い呼吸器外科を学びながら、今後も歩みを進めたいと思います。

現在の名古屋大学呼吸器外科のスタッフは、私が最年長で、教員 9 名(教授 1 名、病院准教授 1 名、講師 1 名、病院講師 1 名、病院助教 5 名)という構成で、ちょうど「脂ののった今が旬」のチームです。医局員全員が一丸となって、ワーク・ライフバランスを重視し、多様性を受容できるような成熟した環境作りを進め、個々の能力が最大限に引き出せるような教室を目指します。名古屋大学呼吸器外科として、新たな船出を迎えるにあたり、皆さまには、今後とも一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう謹んでお願い申し上げます。